

南方仏教と北方仏教（友人に送った手紙を編集）

私たちは大切な人生で「**大安心**」をつかめたらどれほど幸せでしょう。という立場で書かせていただきます。

私は2002年に悟りを開くとともに、視野が広がりました。色々な本を読み多方面の勉強もしました。坐禅については色々な人の入門書や原始仏教について書かれた本も読みました。

昔は小乗仏教と大乘仏教といわれていました。

小乗仏教というのは大乘側からの見下げた言い方だったのです。

私は自分の悟りの段階を調べる時に役立ったのは南方仏教の阿含経です。

特にお釈迦さんの「成道」の話が参考になりました。

あるときテレビで

NHK 教育テレビの宗教の時間に大学教授が「お釈迦さんの話を忠実に書いているのは阿含経など原始仏教の経典だけで、その後書かれたものには、仏教作家がお金儲けのために書いたものも含まれています」と話されていました。

またある人は本で次のように解説していました。

編纂が長期にわたり（数百年）、余りにも沢山の経典があることについて「次々と仏が生まれて書かれたものです」と。

（私は少し信じがたいです。仏といわれるほどの深い悟りを得た人は虚飾は使わないと思います。必要がないし、かえって疑われる事を知っているからです）

欧米の仏教学者たち

彼らは研究に値するのは原始仏教の仏典類だけだと考えているようです。現実的に南方仏教の世界には涅槃を体得した高僧がおられるようです。つまり今も素晴らしく深い悟りを開いた人がおられるのです。その事実は南方仏教の実力を示しているといえそうです。

ある新聞記者の見方

この人は浄土真宗の僧侶が書かれた「ブッダの悟りから涅槃の道を訪ね

て」(?正しい題名は忘れまし)の書評を書くためにその道を辿られたそうです。そして目にしたのが「上座部仏教の高僧がエイズ撲滅のキャンペーンをしている姿」。そして日本の大衆とともにある大乘の僧侶達との対比をしてしまった ということです。日本の大乘の僧侶の方々が大衆を忘れていた現実はなんなのでしょうと。高僧が話す理屈ではなく、行動がその心のうちを、物語っているということでしょう。慈悲の心の差かもしれません。

ダライ・ラマさんの考え(国王であり、チベット仏教の一宗派の法王)

チベットにはインドから沢山の仏典が入ってきて漢訳されて中国につたられました。そしてまだ漢訳されていないものもあるそうです。ダライ・ラマさんは全てお釈迦さんが説かれたことだと考えています。お釈迦様が相手によって色々と工夫して説かれた結果だと考え、話されているのです。

私の考え

- 原始仏教の聖典を読むと素朴で飾りが少ないと感じます。とはいえ編纂時にお釈迦さんの仲間に色々優れた人がいたのに、削除して、仏や釈尊などと祭り上げて神格化してしまっているという人もいます。大変残念な事です。私たちが上がれる梯子が見つからなくなるからです。たとえ坐禅という方法が見つかって登る気力を損なう危険性があります。
- 大乘仏教の仏典は虚飾が多いと感じます。昔の迷信があった時代の人はいざ知らず、私が科学が科学を信じ、迷信を信じないから、虚飾だと感じて、そのような仏典はまがい物だと感じてしまうのです。大乘仏典では「成道」の場面もオーバーな表現をされていると思います。

私は今坐禅を愛行する人の参考になる「釈迦仏教と大乘仏教」を対比した「新しい本」の資料集めに入りました。来年夏までの完成を目指しています。その内もっと上手に、ご説明できるようになると思います。